

第3章 横浜の子ども読書活動推進の課題

本章では、これまでに述べてきた基本的な考え方と現状分析に基づいて、横浜市における子ども読書活動の推進にあたり、具体的に取り組むべき課題を整理してみることにします。

1 子ども読書活動推進の目標

○子どもの読書習慣の定着化と読書意欲の向上

乳幼児期から、子どもたちの本や読書についての興味を喚起するよう努めます。そして、学齢期（主として学童期～青年期前期）においては、市立図書館・各関係機関や、地域住民との協力・連携のもとに、学校図書館を核として、子どもたちの読書習慣の定着化と、主体的な読書意欲の向上を図っていきます。

2 読書活動推進のための具体的課題

（1）学校図書館機能の充実と活性化

学齢期の子どもにとって、学校図書館は、読書活動の重要な拠点であるといえます。選書の改善や、施設としての魅力の向上、利用しやすさの改善等により、学校図書館を、子どもたちが日常的に立ち寄り、活発に利用することのできる場として整備する必要があります。

あわせて、学校図書館の役割や機能を支える、司書教諭や学校図書館担当教諭の研修の充実等も、検討すべき事項と言えます。

（2）学校、市立図書館、図書施設、各種情報提供機関等の連携

子どもたちが、多様な機会を捉えて効果的に読書を進めていくためには、関係機関のネットワークにより、いつでも、どこでも、必要な本や、本についての情報が手に入るようにすることが大切です。横浜では、学校図書館と市立図書館との連携が弱いことが調査結果からも指摘できますが、学校図書館の充実のためにも、市立図書館等との連携や協力体制を強めていくことが必要であると言えます。

（3）読書活動につながる教育内容・方法の工夫

教職員は、子どもたちに読書への興味を起こさせ、本の世界への橋渡しをする上で大きな役割を担っています。まず、教職員自身が本に親しみ、読書の面白さを積極的に子どもたちに伝えていくよ

うにすることが大切です。そして、「朝読書」等、読書の習慣付けの活動を一層推進するとともに、司書教諭等を核とし、各教科が連携して、読書活動の促進につながる効果的な指導計画を立てていく必要があります。

その際には、読書の自主性・主体性を十分に尊重し、子ども自身が自らの意思で自由に読書を楽しむ心をはぐくむ、という視点が大切です。

(4) 読書ボランティア等、市民による子ども読書活動推進への支援

横浜の読書活動を様々な面で担っている市民の力がより有効に発揮できるよう、市民の読書ボランティアや、読書活動のコーディネートができる地域の人たちの育成支援や、ネットワーク化支援を進める必要があります。

(5) 子どもと本の出会いを増やす環境づくり

『読書アンケート』からも伺えるように、多くの子どもが、読書に関心を持ちながらも、自ら本を選ぶ判断基準を持たないために、本の世界に入っていくきっかけを得られずにいます。一人ひとりの子どもの個性を伸ばせるような本との出会いを、身近な大人が適切に作ってあげられることが望ましいと言えます。

親や家族はもちろん、教職員、市立図書館や図書施設の関係者、地域で子どもの読書活動に携わっている市民等が協力し、子どもと本との出会いの機会づくりを工夫することが、読書活動の推進に大きな効果をもたらすはずです。

(6) 子ども読書活動の意義や、計画推進に関する普及啓発

子ども読書活動の推進が、学校・家庭・地域の連携により、一層広がりを持ったものになるためには、読書フェア等の開催や、啓発パンフレットの作成、計画的な広報等、この計画の趣旨や内容をより多くの市民や関係者に知ってもらう機会を、積極的に設けていく必要があります。

3 推進主体別の課題

(1) 学校

ア 学校図書館の利用の促進・利用の定着化

(蔵書や施設の魅力向上、利用しやすさの改善等)

イ 年間指導計画に基づく読書活動の推進

ウ 朝読書などによる児童生徒の読書習慣の徹底

- エ 市立図書館の様々なサービスの活用や、関係施設との連携強化
- オ 読書ボランティア等との連携の機会拡充
- カ 児童生徒の読書への興味を喚起する取組の充実
(図書委員会等を通じた子どもの自主的な取組を生かす)
- キ 教職員に対する読書活動推進の必要性の徹底と、教職員が読書に親しむ環境づくり
- ク 司書教諭・図書館担当教諭の機能強化

(2) 図書館

- ア 児童生徒向けの資料や相談業務等の充実
- イ 外国人の子どもや帰国児童生徒、障害のある子どもへの支援
- ウ 読書活動の普及のための情報発信や行事などの充実
- エ 市民ボランティアの育成支援及び連携・協働の促進
- オ 学校・地域・関係機関との連携や、情報交換・交流
- カ 選書への協力等、学校図書館支援の強化
- キ 市立図書館以外の図書施設の活用促進

(3) 家庭・地域

- ア 家族ぐるみ・地域ぐるみで読書に親しむ環境づくり
(親や家族内での読書習慣の醸成、読書を媒介とした子どもと大人の交流・結びつき)
- イ 子どもと本を結びつける地域の担い手(読書活動コーディネーター等)の育成
- ウ 読書ボランティア活動の充実・ネットワーク化
- エ 公共の図書施設・各種情報提供施設等の活用と連携
- オ 学校図書館・図書施設活性化のための市民参画の促進